

栗てまり 栽培のポイント！！

育苗管理

1. 育苗管理
 - ・発芽まで25℃前後を確保し、発芽後は徒長しないよう温度管理を行う
 - ・10.5cm程度のポットで本葉3～4枚まで成長させる
 - ・生育後半は育苗温度を徐々に下げて低温に馴化させる（最低10～15℃程度）

圃場作り

2. 圃場作り
 - 1) 基肥
 - ・N : P : K = 7～10 : 12～20 : 10～12 kg/10a
 - ・定植7～10日前に全面に施用し耕耘する
 - ・土壌pHが酸性の場合は、苦土石灰・炭カル等で酸度矯正を実施する
 - 2) 畝立て・マルチ
 - ・定植までにマルチをして、地温を15℃以上確保する
 - ※促成栽培の場合、あわせてトンネルや不織布を利用して保温する
 - ・排水性が良い圃場を選定し、水はけの悪い圃場の場合は高畝にする

管理

3. 管理
 - 1) 定植
 - ・栽植密度は400～500株/10a を目安とする
(畝間 : 3.0～3.5m 株間 : 70～80 cm程度)
 - »本葉3～4枚で定植を実施
 - »定植後の乾燥は、活着不良の原因となるため注意する
 - 2) 栽培管理
 - ・活着し、本葉4～5枚になったら親づるを摘心する
 - ・勢いがある子づるを3本残してそれ以外の弱い子づるは除去する
(子づる3本仕立てを基本とする)
 - ・つる同士絡まないよう誘引し、着果節位以降の孫つるは基本的に放任し樹勢を維持する
 - ・1番果は10節程度での着果を基本とし、低節位の雌花は除去する
 - 3) 追肥のタイミング
 - ・1番果の着果後、1週間程度経過したら窒素成分で2～3kg /10a追肥を実施する
 - »後半の肥料切れは、肥大不足や樹勢低下の原因となるため注意する
 - 4) 病虫害防除
 - ・うどんこ病、べと病、細菌病、アブラムシなど病虫害の発生は、枯れ上がりが早まるため、予防的な薬剤防除を定期的に行い、収穫期まで樹勢を維持する

|| 定植目安 ||



収穫

4. 収穫・貯蔵
 - 1) 収穫のタイミング
 - ・開花後、40日程度を目安に収穫をする
 - »開花後日数を目安とするが、果梗のコルク化が十分進んでいることを確認して収穫する
 - 2) 貯蔵
 - ・収穫後は日陰で風通しの良い場所に保管し、一定期間（7日以上）風乾させる
 - »粉質の品種のため、風乾・貯蔵することで、でんぷんが糖化して食味が高まる
 - ・収穫物の果皮は濃黒緑色で退色が遅い

|| 収穫目安 ||

